

2022年12月期 通期 決算説明会 質疑応答の要約

2023年2月6日(月)に開催した2022年12月期 通期決算説明会において、出席者の皆さまからいただいた質問をまとめたものです。弊社代表取締役社長 佐藤、常務取締役CFO 五十島より回答させていただきました。

なお、回答内容につきましては、文書化するにあたり、IR担当より補足加筆させて頂いております。

Q1. ホスティング事業の価格改定に関して、インフレの影響とあるがどういった影響があるのか、また2023年12月期の計画には、どれくらい見込まれているのか

A1. ドメインでは、円安の影響が仕入れ価格に出ているほか、サーバーはデータセンターの値上げがコストに大きく影響しています。概ね1割から2割程度のコストアップを見込んでおり、そのために今回の価格改定を実施しましたが、直接増益に寄与するとは見ておりません。(佐藤)

Q2. ホスティング事業の2022年12月期第4四半期はあまり利益が出ていないように見えるが、要因はインフレの影響か？

A2. 第3四半期で高額ドメインの販売があり、それがなくなったことによるもので、インフレの直接的な影響はそこまでなかったと認識しています。(佐藤)

Q3. EC支援事業の2023年計画が減収となる要因と、カラーミーショップの新プラン「プレミアムプラン」に対する期待値はどれくらいを見込んでいるのか？

A3. EC支援事業の減収はSUZURIIによるものが大きく、マーケット環境を見てもEC物販の領域は売買が少なくなってきており、保守的な計画をしています。カラーミーショップについては、価格改定やプレミアムプランの導入もあり増収を計画していますが、新プラン投入に伴うマーケティングコストも計画に入れているため、そこまでの強気ではみていません。(佐藤)

Q3. 金融支援事業は4Qの貸倒引当金による影響で利益が出なかったと思うが、2023年は黒字化する理解でいいか、事業成長は順調にしている認識で問題ないか

A3. FREENANCEでは、3者間取引が業績を牽引しており、連携企業が増えることで利用ユーザーも増えている状況のため、そこまでプロモーションコストはかけずに順調な成長ができると考えています。(佐藤)

4Qの貸倒引当金に関しては、滞留債権が発生したことで起きたものです。現状1月にその分の回収が進んでいるため、今後改善に向かうと見ています。一方で、2月、3月に滞留債権が発生する可能性はあるため、第1四半期がどうなるかは不確実ではありますが、ベースの売上部分は伸びているため、今期は黒字化できるものと考えています。(五十島)

以上